

令和4年度 学校評価実施報告書

学校名 (下鴨中 学校)

教育目標	
「自ら考え、自ら律し、共に行動できる生徒の育成」	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 全校に向けて話す機会があるたびに教育目標を言ったこともあり、また、その中で生徒自身にも目標を使って振り返ることができるようにも話すこともでき、生徒だけでなく、教職員にも目標の文言自体は浸透したように感じる。行事等を中心に、生徒の様子を確認する限りでは、目標達成できている部分が多いようには感じる。そのため、より確実な目標達成のため、来年度も継続して、この目標を生徒だけでなく教職員にも徹底したいと考える。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 年度当初にも説明を聞いたが、わかりやすくて良いのではと思う。特に「共に行動できる」は大人になっても重要なことである。将来、地域を背負って立ってもらうことになるので、地域行事が徐々に緩和・再開される中で、学校の中でだけでなく、地域としても一緒にできるようにやつていきたいと思う。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年9月29日	学校運営協議会
最終評価	令和5年3月10日	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標
(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得 (2) 論理的思考力・判断力・表現力の育成 (3) 授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びの創出 (4) 家庭学習の習慣づけを図り、自主的・計画的な学習態度の育成
具体的な取組
①教師を含む、学習規律の徹底 ②ICT機器やGIGA端末等を活用し、「わかる」授業・「できる」授業・「楽しい」授業に向けた授業改善 ③ユニバーサルデザインを踏まえた、わかりやすい授業展開 ④学習のめあて（本時の目標）の明確化と振り返りの設定 ⑤言語活動の充実と協働的な学習の手法を取り入れた主体的・対話的で深い学びの時間の設定 ⑥3観点の見取りの明確化を授業改善に生かすための目標と指導と評価の一体化 ⑦学習習慣の確立と家庭学習の充実 ⑧少人数授業やチームティーチングによる授業を通して、個に応じたきめ細やかな指導

- ⑨学校図書館の活用を通じた主体的な学習活動や読書活動の充実
- ⑩校内研修の充実と互いに学び合い、自己研鑽を積む教職員集団作り
- ⑪朝読書による読解力、語彙力、表現力の育成
- ⑫テスト前学習相談、夏季休業中の学習相談会等による学習支援
- ⑬教科間、教科と行事間のマネジメントによるより効果的な教育活動の展開

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学力状況調査の結果
- ・学習確認プログラム
- ・学校評価アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」
 - 「授業はわかりやすく、工夫されている」… 94. 0 %
 - 「毎時間の授業において、学習のねらいが理解できている」… 91. 6 %
- ・学力状況調査（生徒質問紙）の「役に立つ」・「どちらかといえば、役に立つ」
 - 「学習の中で P C ・タブレットなどの I C T 機器を使うのは勉強の中で役立つと思いますか」
 - … 91. 3 %

自己評価

分析（成果と課題）

授業の最初に確実に目当てを提示することによって、スムーズに授業に取り組むことができている。また、「わかる授業」が展開できている。しかし、 I C T の活用には、教員の格差が見られる。

分析を踏まえた取組の改善

I C T の活用がどの教員でもできるようなスキルの向上を狙った研修の実施が必要である。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

学校評価アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

生徒が楽しく、しかもわかりやすい授業が行われていることがよく分かった。G I G A 端末を使った授業をもっとやることによって、興味を今以上に持つ生徒がいるに違いないので、たいへんだと思うが技術向上を図ってほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・学校評価アンケート（生徒・12月）の「そう思う」・「だいたいそう思う」
 - 「授業はわかりやすく、工夫されている」… 93. 7 %
 - 「毎時間の授業において、学習のねらいが理解できている」… 92. 5 %
 - 「授業では、話し合いの活動が取り入れられ、意見や発表する場がある」… 95. 1 %

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

授業の最初に目当てを提示するで、生徒がスムーズに授業に取り組め、「わかる授業」もしつかりできていると思われるなど、ある程度、それぞれの目標は達成できているように思われる。しかし、主体的・対話的で深い学びについては、まだまだ研究することが多い。また、 I C T の活用について、個人的に研修を受けるなどして、教員の格差を埋めている状況である。

分析を踏まえた取組の改善

	主体的・対話的で深い学びについて、どのような授業を展開すべきか、他校での実践研究等の情報収集を含め、さらに研究が必要である。また、ＩＣＴの活用について、個人的に研修を受けるだけでなく、他の教員もスキルの向上を図るうえで、その成果を伝達する研修の実施を実施したい。伝達者のさらなる意欲等が増し、他の教員も良い影響が出るのではないかと考える。ひいては、それが生徒にさらに良い結果につながるのではないかと考える。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 前回とほぼ変わらない結果なので、よく取り組んでもらっていることが分かった。生徒にも良い結果が生まれるなら、教員間の相乗効果が出るような研修の実施をお願いしたい。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	重点目標 (1) 命を大切にし、自分も仲間も大切にし、大切にされているという実感が持てる心や態度の育成 (2) 自分の過ちに気づき、公平・公正を重んじる心の育成 (3) よりよく生きようとする豊かな人間性の育成
	具体的な取組 ①教職員の人権問題に対する感覚を磨くとともに、認識や理解の深化 ②人権学習の計画的な実施や、あらゆる教育活動の中で生徒の人権意識を高める取組み ③年間35時間以上の道徳授業の実施と評価の確立と全校教職員で取り組む道徳教育 ④道徳副読本・私たちの道徳の効果的な活用と創意工夫を生かした授業 ⑤部活動・生徒会活動の充実を図り、日常のあらゆる場面で、生徒の心を耕す指導 ⑥人権を尊重し、いじめや暴力を許さない学級集団づくり ⑦一人一人の生徒を大切にする学級・学年経営
	(取組結果を検証する) 各種指標 ・学力状況調査の結果　・学習確認プログラム　・学校評価アンケート　・いじめアンケート ・クラススマネージメントシート

中間評価

	各種指標結果 ・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」 「他者を思いやるなど相手の立場になって物事を考え、行動できている」…94.8% 「道徳の授業ではよりよい生き方について考えことができている」…94.4% ・学力状況調査（生徒質問紙）の「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」 「人が困っているときは、進んで助けていますか」…88.7%
自己 評 価	分析（成果と課題） 道徳や人権学習だけでなく、日々の生活の中での指導の成果が生きているのではないかと考える。しかし、生徒一人一人と向き合う時間がなかなか取れないことがあり、内面に迫れないことがある。
	分析を踏まえた取組の改善 生徒一人一人と向き合う時間を少しでも増やし、よりよい関係を作りながら、さらに高めていき

	<p>たい。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・いじめアンケート
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>教員の皆さんのが道徳の授業をしっかりとやっていることが分かった。それを確実にやっていただき、よりよい人間形成をお願いした。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート (生徒・12月) の「そう思う」・「だいたいそう思う」 <ul style="list-style-type: none"> 「他者を思いやるなど相手の立場になって物事を考え、行動できている」…95.9% 「道徳の授業ではよりよい生き方について考えことができている」…96.2% ・いじめアンケートの「はい」 <ul style="list-style-type: none"> 「友だちからされたことで、いやな思いをしたことがありますか」…7月16名→12月8名 「友だちがいじめられているのを見たことがありますか」…7月12名→12月1名
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>アンケート結果を見る限り、指導の結果が出ているのではないかと考える。いじめアンケートの「友だちからされたことで、いやな思いをしたことがありますか」で「はい」と答えている数が多いのは1年生であり、小学校からの人間関係を引きずっていることが多く感じられる。しかし、発見や訴え等による指導や、日々の中での指導の中でいじめの件数が激減ではないが減っているので、これをさらに進めたい。目標はある面達成できたのかもしれないが、教員のさらなる人権感覚を研ぎ澄ます必要があるように感じる。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>外部の講師を招くなどし、校内研修だけでなく、人権感覚を養うことによって、それが生徒にも反映されるようにしたい。</p>

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 保健体育や部活動等を通して、自らの健康や安全を管理し、生活を改善する力の育成 (2) 心身の健康を維持し、たくましく生きるための力の育成
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保健だよりの活用等による「早寝・早起き・朝ごはん」を基本とした生活習慣の確立の促進 ②「食事・運動・休養・睡眠」をバランスよく取り入れた生活習慣の確立が心身の健康のみならず学習意欲の向上にもつながることを理解していただくための保護者への働きかけ

- ③保健体育や保健指導・学級指導を通じて、組織的・計画的な「心の教育」の推進
- ④家庭科と連携を図った食育の充実
- ⑤生徒に正しい知識を身に付けさせるための薬物乱用防止教室や防煙教室の実施等による保健教育の充実
- ⑥体育の授業や部活動の充実を図り、運動能力や体力の向上を促進するとともに、運動やスポーツを通して達成感や成就感を味わう豊かな人間性の育成
- ⑦避難訓練等を含む安全指導の充実を図り、防災や安全に関する知識や技能を身につけさせるとともに、生徒の家庭・地域での役割の理解の深化

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生活状況調査や毎朝の健康観察の結果
- ・委員会活動の実施状況
- ・運動部活動への加入率
- ・安全や健康に関する取組の実施状況
- ・体力テストの結果
- ・学校評価アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」
「『早寝・早起き・朝ごはん』やバランスの取れた『食事・運動・休養・睡眠』など、しっかりととした生活が送られている」… 81. 2%
- ・運動運動部活動への加入率… 60. 2% ※文化部加入率… 24. 9%

自己評価

分析（成果と課題）

基本的な生活習慣は思ったより確立されている。また、運動部の加入率も昨年度よりわずかだが多く、60%を超え、体育の授業以外でもかなり運動もできていると考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

もう少し基本的な生活習慣の大切をPRするようにし、数字を高めていけるようにしたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・生活状況調査や毎朝の健康観察の結果
- ・安全や健康に関する取組の実施状況
- ・体力テストの結果
- ・学校評価アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

コロナ禍ではあるが、結構、部活もできているようなので安心した。また、中学生になると、小学校の時に比べ、遅く寝る子が多いと聞くがそうでもないことに驚いた。これが続くように指導をお願いした。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・体力テストの総合評価の「A」

	1年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
本校	0%	15. 6%	7. 1%	24. 6%	19. 1%	31. 6%
京都市	3. 1%	18. 6%	6. 0%	18. 4%	12. 7%	19. 6%

- ・学校評価アンケート（生徒・12月）の「そう思う」・「だいたいそう思う」

「『早寝・早起き・朝ごはん』やバランスの取れた『食事・運動・休養・睡眠』など、しっかりと

した生活が送っている」…80. 1%	
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>体力テストでは1年は男女とも全市平均に及ばないが、学年が上がるごとに全市を大きく上回っていることがわかる。基本的な生活習慣も前回とほぼ変わらず、8割を超えていたため、概ね確立されていると推測される。そのことから、ある程度、目標が達成されたと考える。1年が体力的に低いことについては、小中連携の課題と考える。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>次年度は「1校1プラン」をもとうまく活用することで、1年を含め、体力の底上げを図る。また、基本的な生活習慣については、保護者と連携を図れるような取組を実施したい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>体力のデータを見る限り、中学校が取り組んでいることが成果として表れていることがよくわかる。継続をお願いしたい。また、生活習慣は家庭での問題でもあり、地域として何か改善をPRできることがないか考えたい。</p>

(4) 学校独自の取組

重点目標
カリキュラムマネジメントを活用し、今までの総合的な学習の時間・道徳・特別活動・学校行事・委員会活動・部活動等の整理
具体的な取組
学習発表の取組（合唱コンクール、体育大会、修学旅行取組を含む）に対する状況確認と点検・整理

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・各取組の振り返り
- ・学校評価アンケート
- ・年度末反省

中間評価

各種指標結果
9月以降に取り組みが多く、その振り返りがまだできていない部分がある。
自己評価
<p>分析 (成果と課題)</p> <p>学校行事が例年通りに近づいていることもあり、生徒もそれに向けて前向きな部分が増えてきている。しかし、その分、行事予定や取り組み日程等に圧迫がある。</p>
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>従来に戻すのではなく、新しいやり方・取り組みをもっと模索することが必要である。</p>
<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各取組の振り返り ・学校評価アンケート ・年度末反省
学校関係者評価
無理のないようにしてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
・学校評価アンケート（生徒・12月）の「そう思う」・「だいたいそう思う」 「学校行事は楽しく充実したものになっている」…94.2%	
・年度末反省（一部・抜粋） 「年度途中での提案ができるだけないように年度当初から計画立案して…」 「総合的な学習の時間の内容を計画的に進めて…シラバスがあるといいのでは…」	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>学校行事は生徒にとって昨年度よりも充実したものになったと思われる。しかし、コロナの考え方方が緩和されるにつれ、年度当初計画をしていたこと以上の取り組みができるようになり、計画変更を余儀なくすることとなった。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>計画変更には柔軟な対応も必要であるが、生徒にとって必要な力は何かを考え、それに基づくよう、先を見越した計画の立案を各係に徹底したい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>行事だけを見せていただいた限りでは、生徒たちは喜んでいたと思う。計画変更はどの世界でもありうるが、全体のバランスも必要ではないかと思う。今、生徒に付けてほしい力は何かを考え、無理なくやっていただきたい。</p>

（5）教職員の働き方改革について

重点目標
「学校・幼稚園の働き方改革宣言」のさらなる活用を進め、教職員の意識改革を図り、地域・保護者との意識の共有を図りながら、業務改善に向けた、積極的な取組を推進する。
具体的な取組
<p>①教職員の勤務状況の把握について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の客観的な把握（出退勤管理システムの活用） ・教職員の健康状況の把握（教職員定期健康診断、ストレスチェックの活用） <p>②業務改善の取組の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校・幼稚園の働き方改革推進宣言」の周知徹底 ・勤務時間を意識した働き方の推進 ・部活動の適切な実施 ・ICTや採点ソフトを活用した業務の効率化 ・長期休業期間を利用した取組（授業や学校行事の事前準備等） <p>③労働安全衛生の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長による教職員ヒアリングや面談の実施 ・風通しのよい職場づくり（ハラスメントの防止）
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムの結果 ・年休等休暇取得の状況 ・教職員ヒアリングや面談の内容

中間評価

各種指標結果
・出退勤システムの結果
4月…45時間以上15名・80時間以上4名・100時間以上0名

自己評価	分析（成果と課題）
	校務支援員の活用が一定の効果があった。しかし、コロナが一定収まった状況になり、様々な行事が通常を取り戻しつつあるため、特に合唱コンや体育大会・部活の新人戦と行事が集中する9月は勤務時間が増加傾向にあり、旧来の考え方や意識をいかに変化させるかが課題である。
	分析を踏まえた取組の改善

反省から見えてくる精選できる分をあぶりだし、考え方や意識の改革を進める。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・出退勤管理システムの結果
- ・教職員ヒアリングや面談の内容

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	一昨年や昨年と比べて、コロナの規制が緩くなったのは仕方ないことであるが、いわゆるブラックな職場と言われないように、難しいと思うが何か打てる手はないか考えて実行してほしい。また、地域人材の活用が役立つなら人材を探したいと思うが、高年齢化してきている部分もあり、厳しいかも知れない。

最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果											
	<p>出退勤システムの結果</p> <table> <tr> <td>10月…45時間以上</td> <td>10名</td> <td>・80時間以上</td> <td>7名</td> <td>・100時間以上</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>2月…</td> <td>14名</td> <td>・</td> <td>1名</td> <td>・</td> <td>0名</td> </tr> </table>	10月…45時間以上	10名	・80時間以上	7名	・100時間以上	6名	2月…	14名	・	1名	・
10月…45時間以上	10名	・80時間以上	7名	・100時間以上	6名							
2月…	14名	・	1名	・	0名							

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

9月から合唱コンや体育大会の行事の取り組みが始まり、また、秋季大会もあり、加えて10月には定期テスト、生徒会選挙、3年個人懇談の向けての準備等が重なり、多忙を極めた。目標達成できたと思われることと、そうでないことが大きく分かれる結果となった。行事をすることは生徒にも良いことであるが、オーバーワークとならないように、内容の精選の必要性が浮き彫りとなった。

分析を踏まえた取組の改善

計画時間内で終われるようにする行事の内容の精選と、それを守る教員の意識の改革、特に学校経営を担う運営委員の意識の改革が必要である。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	生徒のために行事に情熱を傾けていただくのは非常にありがたいが、過労で倒れるようなことがあってはいけないと思う。今年度は薬物乱用防止教室でお手伝いできたと思うが、それ以外にも今いらっしゃる地域人材の活用ができないものかと思う。

（6）いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標
人権を大切にし、いじめや暴力を許さない集団を育成する。また、教職員全員が「小さな」問題行動も見逃さず、「速やかに」・「粘り強く」指導する体制づくりをし、「見逃しのない観察」・「手遅れのない対応」・「心の通った指導」を実践する。
具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・いじめアンケート
- ・学校評価アンケート
- ・クラスマネージメントシート

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」
「いじめは絶対に許さないという意識を持っている」…98.1%
「学級・学年の友達や部活動の先輩や後輩とも仲良くできている」…94.2%
- ・学力状況調査（生徒質問紙）の「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」…94.8%

自己評価	分析（成果と課題）
	いじめを許さない意識は高いが、数%の生徒がそうでないことがわかり、なぜそうなのかを内面から分析し、対応すべきと考える。
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	道徳の授業や人権の授業でももっと取り上げて、改善したい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・いじめアンケートの「はい」
「友だちからされたことで、いやな思いをしたことがありますか」…7月16名→12月8名
「友だちがいじめられているのを見たことがありますか」…7月12名→12月1名
- ・学校評価アンケート（生徒・12月）の「そう思う」・「だいたいそう思う」
「いじめは絶対に許さないという意識を持っている」…97.7%
「学級・学年の友達や部活動の先輩や後輩とも仲良くできている」…95.4%

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	いじめアンケートの「友だちからされたことで…」は1年に多く、小学校からの人間関係を引きずっているものと考えられる。しかし、学年が上がるごとに、あるいは、中学校での生活を経るごとに減少しているので、ある程度、中学校での日々の指導を含めた様々な取り組み・指導が成果をあげていると思われる。これを踏まえて、「0」となるようにさらに取り組んでいきたい。
分析を踏まえた取組の改善	小学校との連携を密にし、生徒の情報を確実に受け取り、人間関係を正確に把握しながら、さらに取り組みを進めたい。また、小中連携で生徒指導や補導問題の対応の交流を促進したい。

学校関係者による意見・支援策

中学校が取り組んだ成果が分かった。見守りで小学生や中学生があいさつをしているときの様子とはやはり違うのだなとも思った。小中の連携を強化することで、解消されることが多いなら、ぜひやっていただきたい。見守り等で、異変があったら、学校にも知らせるようにもしたい。